

平成30年度 第2回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 平成30年10月16日（火）午後2時00分～4時00分
- 【場 所】 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 上田、西田、鶴岡、堺（婦）、野田、松尾、江崎(君)、後藤、藤本、岡本、柿川、江崎(美)、堺（裕）（敬称略）
- 【欠席委員】 原田（敬称略）
- 【行政関係者】 中村市民協働部長、中島市民協働部調整監、徳川地域コミュニティ推進課長、平田人権・同和教育課長、徳永スポーツ推進室長、前原生涯学習課主査、吉富生涯学習課主査、西田地域コミュニティ推進課社会教育主事、上田同課社会教育担当職員

◆あいさつ

中村市民協働部長

◆報 告

1 平成30年度福岡県社会教育研究大会について

江崎(美)委員より、配布資料『研修会参加報告書』に基づき報告。

2 平成30年度南筑後地区社会教育委員交流会について

上田委員、堺(婦)委員、野田委員、後藤委員、柿川委員より、配布資料『研修会参加報告書』に基づき報告。

◆議 題

1 協議テーマ「多世代間の交流を進めるには」

協議内容は以下のとおり。

委員	手鎌校区では、今年度初めて通学合宿を行う。児童と地域の大人との交流のあり方や必要性、交流を通して子ども達やボランティアがどう感じたのかを見つめていきたい。
議長	通学合宿は、多世代間の交流には、とてもいいものだと思う。
委員	みなと校区は通学合宿を実施して4年目。多いときには、30人の子どもが参加した。きっかけは、小学校の校長先生とのつながり。自分は、地域の人を知っているので、ボランティアとして参加してもらおう声を掛けやすい。子どもは、最初は楽しいだけのものと思って参加する。もらい湯の際は、子ども達は緊張していたが、とても礼儀正しかった。 料理や宿題、就寝の時も地域の人の見守りが必要。
委員	ボランティアの募集はどうしているか。いい方法があれば知りたい。
委員	チラシで募集したが、なかなか集まらなかった。公民館活動をしている人や民生委員などに声かけを行った。声かけが重要。

委員	天の原校区は参加する子どもが少ないので、こじんまりと実施している。30人ほどのボランティアの名簿を作っている。子どもが少ないので、子どもとボランティアがとても仲良くしている。ボランティア集めは、初年度が大変だったが、参加時間は短時間でも構わないと声をかけ、人を集めた。
委員	自分はPTAの会長もしていたので、色んな方に声をかけた。
議長	地域の方の顔を知っている人が、リーダーになると声かけがしやすい。
委員	上内校区は30名の子ども達が参加している。8年続いており、子どもとボランティアの方が、顔を知っているという関係が大変心強いと感じる。6年生が4年生の面倒を良く見ている。上内校区は、通学合宿以外にも地域行事が多いので、多世代の交流につながっていると感じる。 通学合宿の期間として、最初は4泊5日だったが、ボランティアも大変なので、3泊4日になり、今年度は2泊3日にした。しかし子ども達の自立という面を考えると、もう1泊あったほうが良いと思った。
議長	ほかに人との関わり、出会いの場があるという方がいれば教えていただきたい。
委員	手鎌校区では、SOS模擬訓練の際、小学校・中学校・高校と福祉施設が連携し、ボランティアでカレーを作っている。小学校と連携して実施する方が、地域との関わりが持ちやすい。
委員	みなと校区では、地域の運動会に子どもの種目を用意している。子どもが来ることで、保護者も来てもらえる工夫をしている。
委員	自分は子育てサークルで活動しているが、地区公民館のサークルで校区の子ども達を募集し、一緒に料理をつくる機会を設けている。
委員	勝立地区公民館では、毎週水曜日と土曜日にアンビシャス広場を開設している。水曜日はサークル会員、土曜日はPTAや民児協に見守りをさせていただいており、月1～2回はイベントを行っている。芋ほりや門松づくり、バレンタインなどのイベントでは、地域の人に講師に来ていただいている。
議長	アンビシャス広場の参加はどれくらいあるのか。
委員	通常の参加者は10名ほど。イベントの種類にもよるが20名ほどの参加があり、人気のイベントは参加者も多い。高齢化で中心となる人がいないことが課題。
委員	玉川校区では、4年生が自分たちで田植え・稲刈りをしたお米でもちを作り、メッセージを付けて一人暮らしのお年寄りに持っていくことで、地域のつながりが出来ているのではないかと思う。
委員	まち協や公民館活動に若い人が入ってこない。若い人が隣組長になったときには、まち協の会計監査をしてもらい、地域活動に参加するきっかけになるよう働きかけをしている。
委員	役員が多く役を持っていることが多い。子どもの時から地域活動にかかわりを持つようにしたら良いと考えている。
議長	地域活動に参加している若い方は何歳くらいの方なのか。

委員	30~40代の方で、PTAの方。
委員	大正校区では、PTAはまち協に入らなければならなかった。
委員	自分は子どもの時から、公民館に入っていたので、入っているのが当たり前だと思っていた。地域によっては公民館に入らないと子ども会に入れないと聞いた。
委員	若い方からは、「入りづらい」「自分からは言いづらい」「言われないと入らない」という声を聞く。
委員	地域によっては子ども会すらないところもある。
委員	アンビシャス広場同士のつながりはあるのか。
委員	子どもの居場所連絡協議会でのつながりはある。
行政関係者	協議会の委員より交流したいという意見があり、交流の場を設けた。
委員	そのつながりが子ども会までつなると良いと思う。
委員	サロン活動の一環で、ハロウィンの時、子ども会とサロンでお菓子を用意し、地域の家にお菓子を置いておいてもらう。子ども達が家に行き、お菓子をもらいに行くことで、少しでも関わりが持っているのではないか。
行政関係者	サロンとは、小規模な高齢者の集まりであり、出前講座や体操、子どもとの交流事業もある。活動の内容は地域によってさまざま。
議長	交流の場としてサロンが良いという意見が出た。
委員	天の原は校区子ども会があるが、地域とのつながりはあるのか。
委員	地域へのつながりまでは、まだ見えていない。校区子ども会を立ち上げた理由の一つとして、公民館に入っているかどうかで子どもたちを区別しなくなかったからである。

◆その他

子育て情報誌おおむたっ子に掲載する社会教育委員のメッセージについて

⇒次回会議 11月27日(火) 14時00～予定